

New Products Review

これは買い!?
気になる新製品をいち早くテストする!



低価格パーソナル向け11Mbps無線LAN
**11Mbps AIRCONNECT
WLA-PCM2-L11**



SDMI対応の著作権保護技術を搭載した携帯プレーヤー
バイオミュージッククリップ
MC-P10



ファームウェアのアップデートで各種のファイルフォーマットをサポート
Creative NOMAD Sports



大容量のバッファメモリー搭載で速写が自慢の300万画素ズーム
CAMEDIA C-3030ZOOM



コストパフォーマンス抜群の334万画素3倍ズーム
QV-3000EX



通信機能を内蔵した214万画素単焦点モデル
CAMEDIA C-21T.commu



プリンター共有機能付きネットワーク接続型20GB HDD
**EtherFast 10/100
Instant GigaDrive 20GB**



機能を組み合わせて利用できるPCカード
**RealPort 2 Integrated
PC Card**



携帯電話やWorkPadと連携するメールソフト
Shuriken Pro



iモードメールにも対応した携帯電話メモリー編集ソフト
ケータイ・リンク

条件を細かく指定して携帯電話やモバイル先にメールを転送
FlexMessenger Personal



低価格パーソナル向け11Mbps無線LAN

11Mbps AIRCONNECT WLA-PCM2-L11

Check!

11Mbpsの高速通信で低価格を実現
PCI対応オプションカードでデスクトップPCでも使える
AirMacとの相互接続に対応予定

低価格で個人ユーザーにも使いやすい無線LANとして評価の高いAIRCONNECTシリーズに、新たにIEEE802.11b規格準拠の11Mbps対応PCカードが加わった。将来のバージョンアップでアップルコンピュータの「AirMac」との接続も可能になる予定となっており、相互接続性でも期待の無線LAN製品だ。

待望の11Mbps無線LAN登場

従来の2Mbps対応の無線LANシステムでも、インターネットのアクセスラインとしてはまったく問題のない速度だった。だが、数台程度のLANでもファイル共有で同時にアクセスすると、数百Kバイト/秒程度しか速度が出ず、LANとしては十分な速度とは言えなかった。後述するように11Mbpsといっても実質的な性能では10BASE-Tより劣るが、それでも2Mbpsに比べると5倍程度の性能アップが図られている。特にオフィスのLANで実用的に活用するには、11Mbpsはどうしても欲しいスペックだったのだ。

WLI-PCM-L11は、新たにルーセントのチップを採用し、無線LANの国際標準規格であるIEEE802.11b規格に準拠したDSSS(スペクトラム直接拡散)方式の無線LANだ。したがって、同じルーセントが手掛けたアップルのAirMac(米国名はAirPort)とも相性がいい。国内でAirPortの発売が遅れたため、すぐに相互接続するのは難しそうだが、ドライバーなどのアップデートでいずれは相互接続できるようになる予定だ。なお、対応OSはWindows98/95、NT4.0およびWindows2000(予定)のみで、残念ながらPowerBookには使えない。

試用レポート

① インストールは難しくない
無線LANの導入は、アクセスポイントの設置、ノートPCへの無線LANカードのインストールという順序で進める。難しいところはないので、初心者でも簡単だ。アクセスポイントには、最初にIPアドレスを設定する必要があるが、「アクセスポイントマネージャ」というツールが用意されており、DHCPでIPアドレスを設定できる。あとは、ESSIDと呼ばれる無線IDを設定するだけだ。クライアント側も、無線LANカードをプラグアンドプレイでインストールした後、「クライアントマネージャ」という専用ツールをインストールし、ESSIDをアクセスポイントと同一に設定するだけで無線データ通信ができる。

② 通信速度は10BASE-Tよりやや遅い
ウィンドウズのFTPコマンドで有線LAN側にあるサーバーとのデータ転送テストを行って、その実力を測定してみた。今回テストしたものは開発サンプル品だったため、発売される製品では別の結果となる可能性もあることをご了承いただきたい。結果を見ると、10BASE-Tのおおむね6割程度の転送速度が出ていることがわかる。

メルコの従来の2Mbps製品は個人向けという性格が強かったが、11Mbpsの速度が出せるとなればオフィスでも十分に活用できそうだ。2万円あまりで11Mbps対応の無線LANが使えることの意味は大きい。無線LANを使うことが特別なことという感覚は、そろそろ捨てなければならないだろう。(梅垣まさひろ)

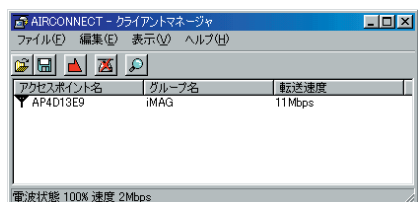
発売元	株式会社メルコ
価格	95,000円
問い合わせ先	052-619-1827
本体寸法	W243mm x D169mm x H41mm (WLA-T1-L11) W54mm x D118mm x H5mm (WLI-PCM-L11)
重量	0.9kg (WLA-T1-L11) 45g (WLI-PCM-L11)
付属品	LANケーブル、ユーティリティディスク、ドライバディスク、壁取り付け金具、壁取り付け用ネジ、マニュアル、他

 www.melcoinc.co.jp

アクセスポイントは2Mbpsのものと同じだ。11Mbpsのカードをセットすると、1、2、5.5、11Mbpsのすべての通信速度をカバーできる。



カードの外観も2Mbpsのものと同様。突起が少なくスラックとした印象だ。



「クライアントマネージャ」は、ESSIDの変更や電波状態の確認などを行う専用ユーティリティだ。

FTPコマンドを使った転送速度測定結果

アップロード

10Base-T	512	1056
無線		

ダウンロード

10Base-T	476	864
無線		

Kバイト/秒 0 500 1000

測定条件：IBM ThinkPad 560Xに無線LANカードをセットし、アクセスポイントを100BASE-TXスイッチハブに接続。有線側のペンティアム 400MHzのFreeBSDサーバーとの間で転送を行った。10BASE-Tの値は同一マシンでの参考値。

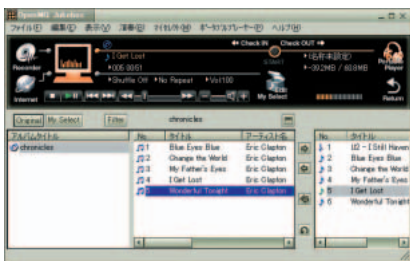
発売元	ソニー株式会社
価格	オープンブライズ
問い合わせ先	03-5454-0700
本体寸法	W21.5mm x D24mm x H119.8mm (直径17mm)
重量	48g(単3形乾電池1本含む)
付属品	CD-ROM、USBケーブル、ヘッドホン、 ネックストラップ、単3形アルカリ乾電池、 マニュアル、他
対応機種	ウィンドウズ98/98SEをプリインストールした「バイオ」シリーズ

Jump www.vaio.sony.co.jp

液晶画面と選曲やボリューム調節用のボタンだけのシンプルなデザイン。再生ボタンは本体上面に配置されている。



背面にはヘッドホン端子のほか、クリップとストラップ用の金具が付いている。



「Open MG Jukebox」のウィンドウ左にはハードディスクに保存されている音楽データ、右にはミュージッククリップに保存されている音楽データが一覧表示される。

「バイオミュージッククリップ MC-P10」は、ソニーのパソコン「バイオ」のオプションとして発売された携帯ミュージックプレーヤーだ。ペンライトサイズのスマートなポディーには、標準モードで80分の音楽データを保存でき、単3アルカリ乾電池1本で約5時間の連続再生ができる。

音楽データは著作権保護のため暗号化バイオとカラーが統一されたミュージッククリップは、デジタル音楽著作権を保護

SDMI対応の著作権保護技術を搭載した携帯プレーヤー バイオミュージッククリップ MC-P10

Check!

暗号化されたATRAC3、MP3形式の音声ファイルを再生
付属のOpenMG Jukeboxで音楽CDをパソコンに録音
インターネットで曲を購入し、ダウンロードできる

するための世界規格SDMIに準拠した携帯プレーヤーだ。音楽データは、ソニーが開発した技術「OpenMG」で暗号化されてから、ミュージッククリップに転送される。

データ転送や暗号化には付属「OpenMG Jukebox for VAIO Music Clip」を使い、パソコンとはUSBポートを介して接続する。OpenMG Jukeboxでは、パソコンからミュージッククリップへのデータ転送を「チェックアウト」、その反対を「チェックイン」といい、チェックインはチェックアウトに使ったパソコンにしかできない。こうすることで違法コピーを防ぎ、著作権を守ろうというのだ。

ミュージッククリップは、ソニーが開発したATRAC3形式のほか、MP3形式にも対応している。なお、MP3形式のデータは、OpenMG Jukeboxで暗号化するが、いったんATRAC3に変換してからミュージッククリップにチェックアウトする。

OpenMG Jukeboxには、音楽CDをパソコンに録音する機能もある。ただし、転送回数に制限があり、チェックアウトできるのはミュージッククリップ3台までだ。ソニー・ミュージックエンタテインメントが行っている「bitmusic」のようなSDMI準拠の音楽配信サービスからダウンロードしたデータの転送はさらに制限され、ミュージッククリップ1台にしかチェックアウトできない。

試用レポート

① 変換に多少時間はかかるが
手順は簡単
ミュージッククリップの説明書やウェブ

ページの紹介には、バイオ以外のパソコンでの動作は保証しないと書かれている。しかし、クロック周波数400MHzのCeleronを搭載したFMV-BIBLOを使ってみると、OpenMG Jukeboxは問題なく動作し、チェックイン/チェックアウトもできた。

OpenMG Jukeboxの操作は簡単だ。ミュージッククリップを接続すると自動的にOpenMG Jukeboxが起動し、画面にパソコンとミュージッククリップ内のデータが一覧表示される。チェックイン/チェックアウトをしたい曲を選んで、チェックインまたはチェックアウトボタンを選択してから「START」ボタンをクリックするだけだ。所要時間は、パソコンの処理能力にもよるが、演奏時間が4分程度の曲で10秒程度だった。

音楽CDの録音も簡単だ。CD-ROMドライブにCDを入れると、「OpenMG CD Recorder」が起動するので、録音したい曲を選んで録音ボタンをクリックすればいい。ただし、データを暗号化するためか、変換には多少時間がかかる。ちなみに、今回使ったFM-BIBLOでは、演奏時間の約半分の時間を要した。

気になるミュージッククリップの音質だが、これまで試聴した携帯プレーヤーのなかではもっとも聴きやすい音質だった。データが約1/10に圧縮されるため音質の劣化は避けられないが、ほとんど気にならないだろう。今回はミュージッククリップ発売前のレビューだったため、音楽配信サービス「bitmusic」からのダウンロードを試せなかったのが残念だ。(飯 暁彦)

ファームウェアのアップデートで各種のファイルフォーマットをサポート

Creative NOMAD Sports

Check!

4時間の音声録音できるボイスレコーディング機能
132×64ドットのバックライト付き液晶ディスプレイを搭載
ヘッドホンやリモコンなどすべて揃ったオールインワンパッケージ

クリエイティブメディア株式会社から発売されている携帯型ミュージックプレーヤー「NOMAD」に新ラインナップ「NOMAD Sports」が登場した。今回のモデルは、ファームウェアのアップデートによって機能の拡張が行える点の特徴だ。

機能が拡張できるプレーヤー

NOMAD Sportsは、ファームウェアのアップデートにより、プレーヤー自身が機能アップするミュージックプレーヤーだ。最新のファイルフォーマットや規格への対応、内蔵ソフトのバージョンアップなどがファームウェアのアップデートで行える。たとえば、現在のところNOMAD がサポートしているファイルフォーマットはMP3のみだが、将来はWMA (Windows Media Audio) にも対応する予定となっている。

本体中央に再生や停止、早送りなどが行えるボタンを備え、ボリュームや録音ボタンなどは側面に配置されている。また、132×64ドットの液晶ディスプレイを搭載し、メニューはアイコンで表示される。サウンド再生の画面では曲名がディスプレイに表示されるので曲の選択は容易だ。ただし、日本語のファイル名は文字化けしてしまう。液晶ディスプレイはバックライトも搭載されているので暗闇でも操作できる。

電源は単3形アルカリ乾電池1本で、約10時間の再生ができる。記録メディアはスマートメディアで、32Mバイトを同梱したモデルと64Mバイトを同梱したモデルの2モデルが用意される。64MバイトモデルでCDクオリティのMP3ファイルが約1時間収

録できる。また、ボイスレコーディング機能も搭載しており、本体に内蔵されたマイクで音声の録音も可能だ。記録フォーマットはADPCM/32Kbpsで、64Mバイトのスマートメディアに約4時間の録音ができる。

試用レポート

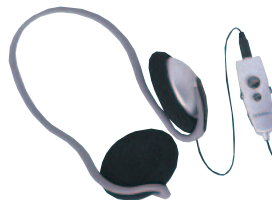
①すべてが揃うオールインワンパッケージ
PCからNOMAD への音楽ファイルの転送には、付属の「NOMAD マネージャー」を利用する。このソフトは、画面の左半分にNOMAD に収録されている音楽ファイル、右半分にPC内にある音楽ファイルが表示される。NOMAD にファイルを転送するには、必要なファイルを選択して「ダウンロード」ボタンをクリックするだけの簡単操作だ。NOMAD のボイスレコーディング機能で録音した音声ファイルをPCに転送するのにこのソフトを利用する。また、音楽CDから簡単にMP3ファイルやWMAファイルが作成できるソフト「Creative デジタルオーディオセンター by MusicMatch」も付属している。これはMusicMatch社のエンコードソフト「MusicMatch Jukebox」と同等の機能を備えており、機能制限版ではないので、音楽CDからのエンコード回数は無制限だ。なお、このソフトは英語版のため、日本語のファイル名は文字化けしてしまう。

PCとの接続にはUSBを採用しているが、ファイルの転送速度は思ったほど速くないのが残念だ。転送時間を計測したところ、4MバイトのMP3ファイルを転送するのに50～

発売元	クリエイティブメディア株式会社
価格	38,800円(64MBモデル) 26,800円(32MBモデル)
問い合わせ先	03-3256-5577
本体寸法	W85mm x D21mm x H93mm
重量	88g
付属品	CD-ROM、USBケーブル、スマートメディア、ヘッドホン、リモコン、単3形アルカリ乾電池、マニュアル、他

Jump www.creaf.co.jp/nomadworld/

本体には大型のフルドット液晶ディスプレイを搭載する。メニューはアイコンで表示され、再生画面では曲名が表示される。



付属のリモコンではファイルの再生や停止、早送り、早戻し、ボリューム調節などができる。ステレオヘッドホンは流行のネックバンドタイプだ。



音楽ファイルをPCとプレーヤーの間でやり取りする付属ソフト「NOMAD マネージャー」ファームウェアをアップグレードする際にもこのソフトウェアを利用する。

60秒ほどかかった。我慢できない時間ではないが、もう少し高速化してほしいところだ。

本体のほか、ヘッドホンやリモコン、記録メディア、エンコードソフトなどすべてが揃っており、このパッケージさえ購入すればMP3環境がすべて整うので、初心者にもおすすめできる製品だ。ファームウェアのアップデートにより、今後、機能がアップする点にも期待したい。(編集部)

発売元	オリンパス光学工業株式会社
価格	125,000円
問い合わせ先	0426-42-7499
本体寸法	W109.5mm x D66.4mm x H76.4mm
重量	300g
付属品	カメラケース、ストラップ、8MBスマートメディア、リモコン、AVケーブル、リチウム電池パック2個、マニュアル、他

Jump www.olympus.co.jp

C-2020ZOOMとまったく同じ外観だが、ボディカラーがブラックになり、重厚なイメージになった



オリンパスの「CAMEDIA C-3030ZOOM」は、32Mバイトという大容量のSDRAMをバッファメモリーとして搭載しており、3.3コマ/秒で最大5コマまでの連写が行える。また、通常の撮影モードでも約1秒間隔で速写ができ、軽快な撮影レスポンスが魅力の高画質デジカメだ。

C-2020ZOOMの多彩な機能に音声録音機能など新機能をプラス

C-3030ZOOMは、C-2020ZOOMをベースとしつつ、さらなる機能向上と撮影レ



3.3コマ/秒の高速連写後は、まとめてデータを処理するので10秒ちょっと待たされるが、通常撮影でシャッターを切る場合には、記録待ちはほとんどない。それだけにシャッターチャンスには強い。

大容量のバッファメモリー搭載で速写が自慢の300万画素ズーム

CAMEDIA C-3030ZOOM

Check!

32Mバイトのバッファメモリーによる速写機能
3.3コマ/秒で最大5コマの連写が可能
音声付き動画の撮影や音声録音機能を搭載

試用レポート

① 軽快な撮影レスポンス

最大の特徴は、32Mバイトのバッファメモリーを利用した3.3コマ/秒、連続5コマの高速連写だ。しかも、VGAサイズの連写ではなく、334万画素をフルに活かした2048 x 1536ピクセルという高解像度で高速連写できる。通常の撮影でも約1秒間隔で次のシャッターを切ることができ、一度C-3030ZOOMを使ってしまうと、C-2020ZOOMがじれったく感じてしまう。

ただ、レンズの明るさがワイド側で1段暗くなったのと、感度の自動アップが最長スローシャッターになるまでISO 200でいったんストップするようになったため、暗い場所での撮影はC-2020ZOOMよりも弱くなっている。また、300万画素ともなると、わずかな手ブレやピンぼけもハッキリわかってしまうため、今までよりも撮影がシビアだ。

しかし、ピシッと決まれば、被写体の細部まで克明に写し取れ、特に中近景の被写体なら、カラーネガをフィルムスキャナーでスキャンするよりも綺麗だ。（伊達淳一）

スポンスの高速化、そして334万画素CCDによる細部描写力を実現したデジタルカメラだ。レンズユニットはC-2020ZOOMと同じだが、CCDのサイズが1/1.8型とわずかに大きくなったため、35mmカメラ換算の焦点距離は32～96mm相当にシフトした。また、十分な周辺光量を確保するため、ワイド側はC-2020ZOOMのF2.0からF2.8に抑えられているが、1/3段ステップで制御できる5枚羽根絞り機構は健在だ。プログラムAEをはじめ、絞り優先AEやシャッター優先AE、マニュアル露出といった多彩な撮影機能を備えている。

さらに、CAMEDIAシリーズとしては初めて音声録音機能を搭載し、音声付き動画の撮影や、静止画へのメモ録音（約4秒）が行えるようになった。ただし、スピーカーは内蔵していないので、カメラ単体での音声再生はできない。シリアル端子に加え、USB端子も装備しており、別売のパソコン接続キット「C-8KU」を使えばUSBによる画像の高速転送が行える。



C-3030ZOOMは、補色タイプの334万画素CCDを採用しているが、原色CCDと見間違えほどのクリアな発色を見せる。ただ、露出を外すと白飛びや暗部のノイズが出やすいので、適正露出が鉄則だ。

CAMEDIA C-3030ZOOM

レンズ	32～96mm相当 (35mmフィルム換算)
CCD	1/1.8インチ334万画素
記録メディア	3.3Vスマートメディア
記録枚数(8MB)	SHQモード約3枚
液晶モニター	1.8型低温ポリシリコンTFTカラー液晶(約114,000画素)
電源	リチウム電池パックCR-V3) 2個、単3形ニッケル水素電池、アルカリ電池、リチウム電池またはニッカド電池4本

コストパフォーマンス抜群の334万画素3倍ズームモデル

QV-3000EX

Check!

F2.0の明るい3倍光学ズームレンズ
コストパフォーマンスではダントツ
夜景もきれいに撮れるなど機能は充実

カシオの「QV-3000EX」は、334万画素の原色CCDを搭載した3倍ズームレンズモデルだ。充実した機能を備えているにもかかわらず、定価88,000円と驚きのコストパフォーマンスを実現しているのが特徴だ。

F2.0と明るい

キャノン製ズームレンズを採用

カシオQV-3000EXは、国内でもっとも発売が早く、なおかつコストパフォーマンスにも優れた300万画素クラスのズームレンズモデルだ。33~100mm、F2.0~2.5相当の明るい3倍光学ズームレンズを採用している、レンズ周りには「CANON LENS」の刻印がある。300万画素CCDの記録能力を活かすには、レンズの光学性能が非常に重要になるだけに、こうした光学機器メーカーのレンズを採用している点は安心感がある。

「カシオQV デジタル」といえば、QV-10の回転レンズスタイルが象徴的だが、今回のQV-3000EXはオーソドックスなコンパクトカメラタイプのデジカメだ。しかし、お手軽簡単カメラかと思いきや、充実した機能が満載されていて、絞り優先AEやシャッター優先AEをはじめ、夜景、ポートレート、風景といった被写体別のプログラムAEも備



原色CCDらしいクリアな色再現が特徴。メニューの画質設定でコントラストや彩度も設定できる。液晶モニターの再生画も鮮やかだ。

えている。また、シャッター優先AE時にSETボタンを押しながら十字キーを左右に動かせば、マニュアル露出も可能だ。

さらに、速写機能も健在で、300万画素化にもかかわらず、約2秒間隔でシャッターを切れる。ピント固定の連写なら、0.5秒間隔で最大3枚の撮影ができる。

試用レポート

① ボディーは大きいですが、多機能・高画質・低価格と三拍子揃ったモデル

300万画素ズーム機のなかでも、QV-3000EXのボディーはかなり大きめの部類に属する。しかし、ポケットに入る大きさを超えてしまえば、ストラップで首から提げて持ち歩くので、多少ボディーが大きくても関係ない。それよりも、QV-3000EXのようにレンズがボディーの中央にレイアウトされているほうが、カメラを構えたときに、自然にホールディングできるので使いやすい。

300万画素の画像を高画質で記録すると、ファイルサイズが非常に大きくなるが、QV-3000EXはCF Type スロットを装備



長時間露出を行うと大量にノイズが発生するデジタルカメラが多いが、QV-3000EXの夜景モードで撮影すると、ノイズはあまり目立たない。街灯の描写を見ると、レンズ性能の確かさもうかがえる。



発売元	カシオ計算機株式会社
価格	88,000円
問い合わせ先	0570-088902
本体寸法	W134.5mm x D57.5mm x H80.5mm
重量	320g
付属品	CD-ROM、ネックストラップ、レンズキャップ、キャップホルダー、ソフトケース、ビデオケーブル、単3形アルカリ電池4本、マニュアル、他

Jump www.casio.co.jp

基本的な使い勝手や機能は、200万画素ズームのQV-2000UXとほとんど同じだが、QV-3000EXには背面に「削除」ボタンが新設され、再生時に表示している画像をダイレクトに消去できるようになった。

している、340MバイトのマイクロドライブやType の大容量CFカードも使用できる。また、撮影した画像をパソコンに自動転送して、簡単に閲覧できる「Photo Loader」というソフトが付属している。このソフトは詳細な撮影データなども表示する優れものだ。

300万画素化による感度やS/N比の低下が懸念されるが、200万画素のQV-2000UXと比べてもノイズが目立つといったことはなく、色再現もクリアになった感じだ。デザインや大きさに納得できるのであれば、お買い得な300万画素モデルと言えるだろう。(伊達淳一)

QV-3000EX

レンズ	33~100mm相当 (35mmフィルム換算)
CCD	1/1.8インチ334万画素
記録メディア	コンパクトフラッシュ (マイクロドライブ対応)
記録枚数(8MB) 2048x1536ピクセル	FINEモード約5枚、 NORMALモード約6枚、 ECONOMYモード約11枚
液晶モニター	1.8型ハイパーアモルファス シリコンTFT低反射カラー液晶 (122,100画素)
電源	単3形アルカリ電池、リチウム電池、ニッケル水素蓄電池 4本、リチウム電池パック (CR-V3P)2個

発売元	オリンパス光学工業株式会社
価格	99,800円
問い合わせ先	0426-42-7499
本体寸法	W106.5mm x D35.5mm x H62.3mm
重量	195g
付属品	カメラケース、ストラップ、8MBスマートメディア、ビデオケーブル、リチウム電池パック、専用通信ソフト、マニュアル、他

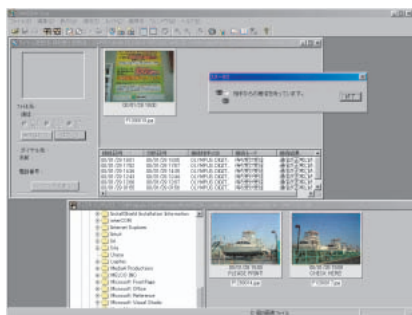
Jump www.olympus.co.jp



外観は「CAMEDIA C-21」と同一で、操作性も変わらない。



別売の専用ケーブルでC-21T.commuとPHSを接続。32KbpsのPHSを使って送信を試してみたが、予想よりも通信時間は短かった。



同梱の「CAMEDIA 通信ユーティリティV1.0」。スマートメディアにメールアドレスやダイレクト送信先電話番号を設定したり、パソコンでC-21T.commuの画像を送受信したりするのに利用する。

CAMEDIA C - 21T.commu

レンズ	38mm相当 (35mmフィルム換算)
CCD	1/2 インチ 214 万画素
記録メディア	スマートメディア
記録枚数(8MB) 1600x1200ピクセル	SHQモード非圧縮1枚、 SHQモード圧縮約7枚、 HQモード約15枚
液晶モニター	1.8型低温ボリシリコンTFTカラー液晶(約114,000画素)
電源	3Vリチウム電池パック(CR-V3)1個、単3形ニッケル水素電池2本

通信機能を内蔵した214万画素単焦点モデル

CAMEDIA C-21T.commu

Check!

PHSや携帯電話による通信機能を内蔵
同梱ソフトでパソコンから遠隔操作が可能
214万画素CCD単焦点レンズのCAMEDIA C-21がベース

オリンパスの「CAMEDIA C-21T.commu」(ドット・コム)は、NTTドコモのPHSや携帯電話をケーブルで接続して、撮影した画像を送受信できるデジタルカメラだ。通信機能を内蔵した機種は、デジタルカメラの黎明期から存在したが、200万画素クラスというより、メガピクセル以上のデジカメとしてはC-21T.Commuが初めてだ。

撮ったその場で送信できるデジタルカメラ

C-21T.commuは、214万画素CCD搭載の単焦点モデル「CAMEDIA C-21」をベースに、通信機能を組み込んだモデルで、NTTドコモのPHSや携帯電話を専用ケーブル(別売)でつなぎ、撮影した画像を送受信できる。あらかじめ登録しておいたメールアドレスに、添付ファイルとして画像を送信できるのはもちろん、PHSや携帯電話をつないだC-21T.commu同士で直接電話をかけて画像を送受信することもできる。また、同梱の専用ソフトウェア「CAMEDIA 通信ユーティリティV1.0」をパソコンにインストールすれば、パソコンからC-21.commuをリモートカメラとして遠隔操作したり、撮影した画像をC-21.commuからパソコンに直接アップロードしたりもできる。

通信機能を内蔵した機種は、デジタルカメラの黎明期から存在し、損害保険や中古車の査定、ガス、電気、水道などの保守メンテナンスなどさまざまなビジネスシーンで活用されてきた。C-21T.commuは、こうした業務用途に応じて開発されたデジタルカメラだが、99,800円とパーソナルユースでも十分通用する価格が魅力だ。

試用レポート

① 通信を行うには専用ソフトが必要

C-21T.commuの操作は、基本的にC-21とまったく同じだ。ただし、撮影した画像をあらかじめ送受信する場合には、同梱の通信ユーティリティをパソコンにインストールして、メールアドレスやダイレクト送信先電話番号、プロバイダー設定などをスマートメディアに書き込んでおく必要がある。C-21T.commuにまささらのスマートメディアを入れても撮影や再生は行えるが、通信機能は使えないのでスマートメディアをフォーマットしないように注意が必要だ。

撮影した画像をC-21T.commuで送信する手順を簡単に紹介すると、まず、PHSあるいは携帯電話を別売の専用ケーブルで接続し、C-21T.commuのモニター表示ボタンを押す。すると、パスワードの入力を求められるので、背面の十字キーを使って入力し、送信する画像を選択する。その際、VGAサイズに縮小して送信するか、オリジナルのまま送信するかを指定できる。最後に、メールとして送信するか、指定した電話番号に直接電話するかを選び、選択した画像を送信すれば完了だ。66KバイトのVGA画像を送信するのに要する時間は、64KbpsのPHSなら約11秒、9600bpsの携帯電話なら約70秒だ。

今回は32KbpsのPHSを使ってみたが、214万画素を最高画質モードで送るようなことをしない限り、実用に堪える時間で転送できた。業種によっては導入を検討する価値は十分にあるだろう。(伊達淳一)

プリンター共有機能付きネットワーク接続型 20GB HDD

EtherFast 10/100 Instant GigaDrive 20GB

Check!

ウィンドウズ、マッキントッシュ、Linux間のデータ共有が可能
プリンターを共有できるプリントサーバー機能を搭載
プラットフォームに依存しない設定、管理機能

リンクシステムから発売された「EtherFast 10/100 Instant GigaDrive 20GB」(Giga Drive)は、プリントサーバー機能を備えたネットワーク接続型の20GBハードディスクだ。設定や管理が簡単なので、部門別やSOHO、家庭でのファイル共有、プリンター共有に向いている。

ウィンドウズ、マック混在の環境にも対応
コンピュータをネットワーク化するメリットは、データやプログラム、プリンターなどの資源を共有できることにある。接続されているコンピュータがすべて同一の機種やOSで統一されていれば、共有は簡単な。しかし、複数の機種やOSが混在しているとなやこしい。ウィンドウズとマッキントッシュの共有機能には互換性がないので、単にネットワークに接続しただけでは共有機能が働かないのだ。

ウィンドウズとマッキントッシュの間でファイルを共有する方法は、これまでもいくつかあった。AppleTalk互換のファイル共有機能を備えたウィンドウズNT4.0をファイルサーバーにするか、LinuxなどのPC UNIXにAppleTalk互換の「Netatalk」とウィンドウズの共有機能と互換性のある「Samba」の両方を導入するのだ。しかし、これらを導入するには知識が必要だ。

GigaDriveは、複数の機種やOSが混在するネットワークで共有を可能にする新しい選択肢だ。この製品のメリットは、設定や管理が簡単な点と実売価格が8万円弱と導入コストが安いことだ。しかも、ファイルだけでなく、プリンターも共有できる。

試用レポート

① 日常の管理や設定はブラウザで
セットアップには、ウィンドウズ95/98、NT4.0版の専用ツールを使わなければならないので、設定にはウィンドウズマシンが必要だ。だが、初期設定が終われば、それ以降はブラウザで管理や設定ができる。Javaスクリプトがサポートされていれば、どのマシンのどのブラウザでもOKだ。

GigaDriveには固定のIPアドレスを割り当ててもいいが、ネットワーク内でDHCPサーバーが動いている場合には、DHCPサーバーから自動的にIPアドレスを割り当ててもらえることもできる。また、GigaDrive自身がDHCPサーバー機能を持っているので、ネットワーク内のコンピュータに自動的にIPアドレスを割り当てても可能だ。これなら、どのような形態のネットワークにも対応できる。

共有ファイルのファイル名やフォルダー名に日本語を使うこともできるが、複数の機種やOSが混在している場合には注意が必要だ。たとえば、マッキントッシュで日本語の名前を付けたファイルやフォルダーは、ウィンドウズからは見えない。また、ウィンドウズで日本語の名前を付けた場合、マッキントッシュからそのファイルやフォルダーは見えるが、開くことができない。

ハードディスクを増設する手軽さでファイルやプリンターの共有環境ができあがるGigaDriveは、特に専門のネットワーク管理者がいない職場に最適なハードウェアだ。

(藪 暁彦)

発売元	株式会社リンクシステム・ジャパン
価格	オープンブライス
問い合わせ先	03-5259-5137
本体寸法	W203.2mm x D279.4mm x H76.2mm
重量	2267g
付属品	ACアダプター、CD-ROM、スタンド、マニュアル、他

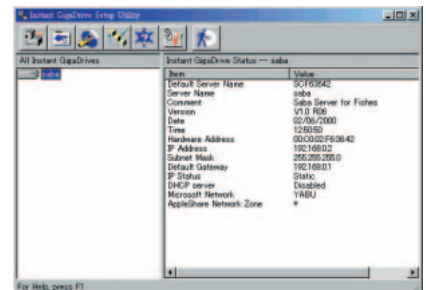
Jump www.linksys.co.jp



前面には電源ランプなどのほか、ハードディスクの残り容量を表示するLEDが搭載されている。



背面には10/100Base-TXポートのほか、プリンターを接続するパラレルポートが用意されている。



ホスト名、IPアドレスといった基本設定は、ウィンドウズ95/98、NT4.0版の専用ユーティリティで行う。

発売元	ザールコムジャパン株式会社
価格	17,600円(RealPort2 CardBus Ethernet 10/100) 17,600円(RealPort2 Ethernet 10/100) 34,100円(RealPort2 Modem 56 GlobalACCESS)
問い合わせ先	03-3407-1900
付属品	CD-ROM、マニュアル、他

Jump www.xircom.co.jp

機能を組み合わせて利用できるPCカード

RealPort2 Integrated PC Card

Check!

必要な2枚のカードを組み合わせて利用できるコネクターを内蔵するためケーブルが直接接続できる別売りのコネクションキットを利用してISDNにも対応



コネクターが本体に接続されているので、ケーブルが直接接続できる。



RealPort2は、機能が違うカードを2枚重ねて利用できる。2枚を利用する場合は、1枚を裏返しにして重ね合わせる。



別売りのISDNコネクションキット(価格はオープンプライス)を利用すれば、ISDN回線も利用できる。

モジュラーケーブルや10/100Base-Tケーブルが直接接続できることで人気のPCカード「RealPort」に新シリーズとして「RealPort2」が登場した。RealPort2では2枚のPCカードを組み合わせられるようになったため、シーンに合わせて必要な機能を選んで利用できる。

必要な機能を組み合わせられる

ザールコムのRealPort2は、モジュラーケーブルや10/100Base-Tケーブルが直接接続できるPCカードだ。ノートPCのTypeカードスロットもしくはTypeカードスロット×2に装着して利用できる。

このカードの最大の特徴は、異なる機能の2枚のPCカードを組み合わせて利用できるという点だ。RealPort2シリーズは現在、LANカードの「RealPort2 CardBus Ethernet 10/100」と「RealPort2 Ethernet 10/100」、モデムカードの「RealPort2 Modem 56 GlobalACCESS」の3製品が発売されており、今後は携帯電話接続カードやISDNカード、DSLカードなども発売が予定されている。これらのラインナップの中から任意の2枚のカードを組み合わせて利用できるわけだ。たとえば、自宅で利用するときはLANカードとモデムカードを組み合わせて利用し、モバイル時にはモデムカードと携帯電話接続カードを組み合わせて利用するという使い方ができる。もちろん、カードを1枚だけ差し込んで単体でも利用可能だ。

試用レポート

① カードを裏返して差し込んでも利用できる

RealPort2で2枚のカードを組み合わせて使う場合、1枚のカードを裏返してもう1枚のカードに重ね合わせて利用する。カードの表の面には凹凸が付いているので、2枚のカードの表の面同士を重ね合わせてからPCカードスロットに差し込めばよい。つまり、1枚のRealPort2は、裏返しにPCカ

ードスロットに差し込むことになる。これで果たして正常に動作するのかと、ふと疑問に思うだろう。RealPort2の説明書にはその事について触れられておらず、ドライバーのインストール方法が書かれているだけだ。カードを裏表に差し込むと壊れてしまうのではないかと不安になるので、その点は説明書に明記してほしいと感じた。

実際にRealPort2を2枚重ねてPCカードスロットに差し込んでみたところ、どちらのカードも問題なく動作した。RealPort2は裏返しに差し込んでも正常に動作するようだ。

添付されているドライバーは、ウィンドウズ95/98やウィンドウズNT4.0、ウィンドウズ2000のほか、ウィンドウズ3.1、MS-DOSなど幅広いOSをサポートする。また、モデムカードはグローバル仕様なので、海外出張の場合も安心して利用できる。

RealPortシリーズの特徴である、ケーブルがカードに直接差し込めるという点は非常に便利だ。じゃまなコネクター類がないので配線がすっきりするだけでなく、外出する際にうっかりコネクターを置き忘れたり、なくしてしまったりといった心配もない。

残念な点は、やはりTypeもしくはType×2のPCカードスロットでないことだろう。ソニーの「パイオノート505」シリーズに代表されるような薄型ノートPCでは、Typeカードスロットが1つしかないものも多く、当然ながらそれらでは利用できない。

Typeカードスロットを備えたノートPCユーザーにはおすすめできる製品だ。

(編集部)

携帯電話やWorkPad と連携するメールソフト

Shuriken Pro

Check!

メールアドレスから携帯電話やPHSの文字数制限をチェック
WorkPadとメールやアドレス帳のデータをやり取りできる
相手がメールを開封したかが一目でわかる

携帯電話やPHSなどへメールを送信する機会も増えてきた。「Shuriken Pro」は、そうした携帯端末へ柔軟に対応したメールソフトだ。

携帯端末へのメール送信機能が充実

Shuriken はもともと「一太郎Lite」の付属ツールとしてスタートしたメールソフトだ。今回、機能の拡充とともに「Shuriken Pro」と名前を変更し、単独のソフトとしてリリースされることとなった。

一番の注目機能は、携帯端末へのメール送信だ。Shuriken Proは、メールアドレスを元に相手の機器を特定し、相手に送信可能な最大文字数をチェックして、送信したいメールを自動分割できる。対応が予定されているのは、NTTドコモの「iモード」など、約20種類の携帯端末だ。将来、仕様が変更された場合には設定情報のダウンロードサービスなどが行われる予定だ。

また、相手が電子メールを読んだか、受信したかどうか分かるMDNも新たに採用された。アウトLOOKエクスプレスやネットスケープメッセンジャーなどMDNに対応したメールソフトなら、お互いにメールの着信を確認できる。そのほか、IBMの「WorkPad」とメールやアドレス帳を、HotSync ボタン1つでデータ交換できる機能も備えている。

試用レポート

① ユーザーインターフェイスに
こだわりを感じさせる

ウィンドウのデザインはオーソドックスなスタイルで、受信トレイ、メール一覧、本文と画面が3つに分かれている。しかし、添付フ

ァイルやHTMLメールを受信すると、ウィンドウの中でメールを効率よく表示させる工夫がされているのがわかる。たとえば、本文はテキスト表示とHTML表示をタブで切り替えられ、画像ファイルなどが添付されている場合は、本文と並べての表示もできる。

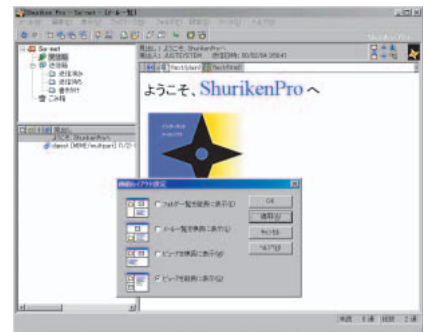
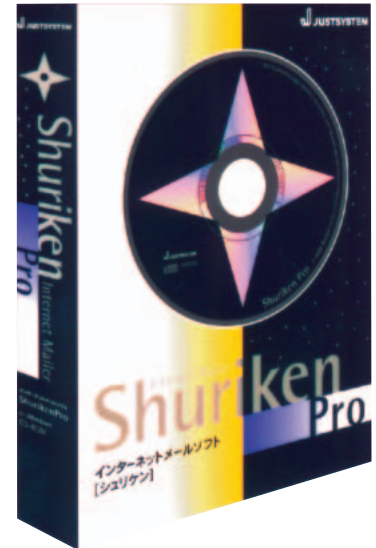
ユーザーインターフェイスは随所にアニメーションが取り入れられていたり、効果音が付いていたりして、とても賑やかだ。個人的には少しやりすぎという感もあるが、不要であればオフにもできる。ツールバーだけでなく画面の色やデザインのカスタマイズも自由度が高く、従来のスタイルに飽きたらデザインを変えて、新鮮な印象を持たせられる。

ダイジェストメールの自動分割機能はメーリングリストに参加している人には重宝する。流通量の多いメーリングリストでは、サーバーの負担を軽くするために「まとめ送り」を利用するようにアドバイスされることがある。「Becky!」などでは、まとめ送りで来たダイジェストメールはマルチパートMIMEの添付ファイルとして受信するため、分割するには添付されたファイルを1つずつクリックする必要があり、非常に煩わしい。Shuriken Proでは、これを受信時または任意のタイミングで自動分割する。これは他のメールソフトにはなかなか見当たらない機能で意外と重宝する。逆に、こちらから複数のメールをダイジェストメールとして送信する機能も付いている。通常のメール転送では1通ずつ転送しなければならないが、Shuriken Proではメールをまとめて一度に転送できる。長々と引用して送るよりもずっとスマートで、それまでの経緯を説明するようになると便利だろう。

既存のメールソフトにはない斬新な機能がいくつか盛り込まれており、今までのメ

発売元	ジャストシステム株式会社
価格	5,800円、3,800円(ジャストシステム製品登録ユーザー優待価格)
問い合わせ先	03-5412-3939
OS	ウィンドウズ95/98、NT4.0、2000 Professional
HDD	30MB以上
メモリー	24MB以上(ウィンドウズ95/98) 32MB以上(ウィンドウズNT4.0) 40MB以上(ウィンドウズ2000)

Jump www.justsystem.co.jp



ウィンドウのレイアウトなどを好みに合わせて変更できる。



内部に画像ビューワーを備え、画像と本文とを並べて表示できる。

ールソフトからの違和感も少ない。「定番」から乗り換えるには面白いソフトだ。

(渡辺裕一)

発売元	株式会社ビレッジセンター
価格	9,800円 (PDC版、cdmaOne版) 5,800円 (ケーブルレス版)
問い合わせ先	03-3221-3525
OS	ウィンドウズ95/98、NT4.0、2000 Professional
HDD	10MB以上
メモリー	OSの動作推奨に準拠

Jump www.villagecenter.co.jp



携帯電話のメモリーダイヤル編集画面。ウィンドウインターフェイスはMDI (Multiple Document Interface) なので複数の電話帳を同時に開いてデータの交換も容易に行える。



着メロ編集画面。NTTドコモの208シリーズの3和音着メロの編集やMIDIデータの読み込みもできる。

iモードメールにも対応した携帯電話メモリー編集ソフト ケータイ・リンク

Check!

iモードメールやショートメールの転送機能
NTTドコモ208シリーズの和音着信メロディーに対応
cdmaOneのCメール転送に対応

携帯電話の小さいボタンで大量の電話番号を管理するのは、はっきり言って面倒だ。これは、一度でも携帯電話の買い換えを経験したことがある人ならわかるはずだ。ケータイ・リンクを使えば、そのような苦労から解放される。

携帯電話の万能編集ソフト

ケータイ・リンクは、携帯電話の電話帳編集を中心としたソフトウェアで、電話帳編集のほかに、着メロの作成や編集、メールの管理が行える。

電話帳の編集では、グループによる管理をはじめ、重複データの検索やCSVなどの各種形式でのファイル入出力、そして、なんと忘れてしまった暗証番号を自動検索して探し出すこともできる。着メロは、「着メロ帳」という方法で管理する。ここでは、画面に表示されるピアノの鍵盤を、キーボードやマウスで操作して着メロを作成できるほか、市販の着メロ本などからのデータ入力やMIDIファイルの着メロデータへの変換もできる。メール帳ではドコモのショートメールやiモードメールなどのメールをパソコンで管理できる。携帯電話に保存できるメールの数は限られているので、パソコンにメールをバックアップできるのはうれしい機能だ。

製品のラインナップは、PDC対応の専用ケーブルが付いた「ケータイ・リンク PDC版」、cdmaOne対応の専用ケーブルが付いた「ケータイ・リンク cdmaOne版」、そしてケーブルの付属しない「ケータイ・リンク ケーブルレス版」の3つが用意されている。対応OSは、ウィンドウズ95/98、NT4.0で、ウィンドウズ2000にも対応する予定だ。

試用レポート

① 使いやすいインターフェイス

マニュアルは単なるインストールマニュアルでしかなく、使い方に関してはほとんど載ってない。ただし、オンラインヘルプには使い方が詳しく解説されているので、ヘルプを読めば使い方は大抵わかるだろう。しかし、携帯電話用のソフトのユーザー層が必ずしもパソコンに慣れた人ばかりではないので、少々不親切ではないかと感じた。

ケータイ・リンクの付属ケーブルはシリアルポートを利用する。当然、USBケーブル版が欲しいと思う人は大勢いるだろう。ケータイ・リンクでも、インクリメントPの「ケータイ・エディ2」のUSBパッケージを持っていればUSBケーブルで接続ができるが、いくらなんでもUSB接続のために2つも携帯編集ソフトを買うのはナンセンスだ。特に、抜き差しが多いことが想定される携帯電話編集では重要なので、是非ともUSB版も出してほしいところだ。なお、一覧には載っていないもののアイ・オー・データ機器の「USB-PDC」などでも利用できるようだ。この他社製品を含む多くのケーブルへの対応が特徴の1つで、NTTドコモ純正の「データリンクケーブル」をはじめ、さまざまなケーブルに対応している点はうれしい。

ソフト自体の使い勝手は、ストレスなく使えるうえに、携帯電話というものを理解して作られているのが感じられる。電話帳と着メロ帳、メール帳という形で、機能ごとにわかりやすく分類されているのも使いやすい理由の1つだろう。また、最新機種にもアップデートファイルでいち早く対応する点も評価できる。 (宍岡 梢)

条件を細かく指定して携帯電話やモバイル先にメールを転送

Flex Messenger

Check!

転送の設定はすべてブラウザで行える
複数のユーザーのメールをそれぞれ転送できる
メールサーバーやネットワーク環境の変更は不要

メールの受信場所は、会社のパソコンだけでは限らない。外出先に持っていったノートパソコンや自宅のパソコン、携帯電話で受信することもある。「Flex Messenger」は、こうした多くの転送先に、文字通りフレキシブルにメールを転送するためのソフトだ。

複数の転送先に条件を設定できる

メールを転送するには、接続しているプロバイダーが行っているサービスを利用したり、転送そのものを目的とするメールサービスを利用したりする必要がある。企業内のメールなら、メールサーバーに直接そうした機能を盛り込むこともできる。

しかし、多くの転送サービスは、受信したメールをそのまま別のメールアドレスへ送るといった単純な機能しか持っていない。Flex Messengerは、メールの送信者や内容などをチェックし、条件に当てはまったものだけを任意のアドレスへ転送できるサーバーソフトで、転送先は複数設定できる。たとえば、プライベートなメールなら携帯電話へ転送し、仕事相手からのメールなら、とりあえず文章の頭だけを携帯電話に転送して、後から全体を読み出せるようにメールサーバーに保存しておくといった設定も可能だ。このように、受信したメールにさまざまな条件を設定できる。

転送の条件設定は、メールソフトの「振り分け」作業に似ている。受信したメールのヘッダーから、「From」や「To」、「Subject」、「Message」などの項目を指定し、そこに含まれる文字列から条件に当てはまるかどうかを決める。この条件は2つ指定することができ、「and」または「or」の演算子で結び付けられる。また、特定の文字列が含まれるメールは転送しないといった設定も可

能だ。転送した後、メールをメールサーバーから削除するかどうかも選択できる。

転送先には、添付ファイルを送るかどうか、最大文字数を何バイトにするか、空白や改行を削除するかどうかの設定もできる。パソコンのメールソフトで見ると空白や改行を入れたほうが見やすいが、携帯電話へのメールなら文字数のほうが気になる。非常に気の利いた設定内容だ。

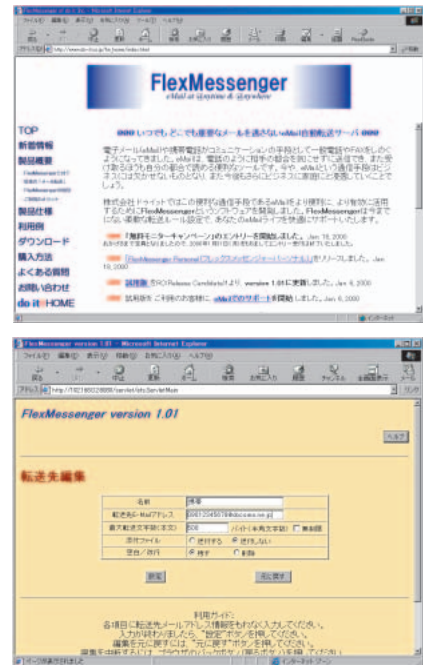
試用レポート

① 複数ユーザーのメールを一括管理

動作の仕組みはメールソフトの自動メールチェック機能と同じだ。Flex Messengerが一定の間隔でPOPサーバーにアクセスし、メールが届いていればそれを受信する。そして、転送条件に従って、受信したメールを改めてSMTPサーバーから指定のアドレスへ向けて転送する。

個人で利用しても便利だが、より効果的なのは企業などのイントラネット内で利用する場合だ。Flex Messengerは複数のユーザーを登録し、それぞれのユーザーごとに異なる転送先を複数登録できる。部署内のファイルサーバーやプリンターサーバーなど、何らかのサーバー上でFlex Messengerを起動しておけば、各ユーザーはブラウザを使って転送先を自由に設定したり、転送の有効/無効を切り替えたりできる。サーバーの管理者にいちいち依頼する必要もなく、退社時に自分のパソコンの電

発売元	株式会社ドウイット
価格	38,000円(10アカウント)～、 Personal版 8,000円(2アカウント)～
問い合わせ先	03-5333-2280
OS	ウィンドウズNT4.0SP4以降、Solaris 2.5以降、FreeBSD 3.0以降、 Personal版はウィンドウズ95/98もサポート
HDD	15MB以上
メモリー	64MB以上
Jump www.do-it.co.jp	

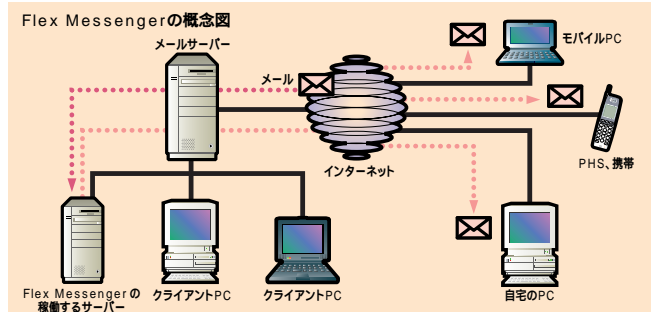


メールの転送は、メールソフトの振り分けのように、メールヘッダーから条件を設定し、任意の転送先を指定できる。

源を落としても大丈夫だ。

なおFlex Messengerは本来企業向けで、動作環境はウィンドウズNT4.0のみとなっている。メールの取得や転送には別途Javaによるエンジンが組み込まれるので、ブラウザで制御するからといってウェブサーバーなどを用意する必要はない。

なお個人ユーザー向けにはFlex Messenger Personalという、2クライアント用もある。こちらはウィンドウズ95/98を正式にサポートしている。(渡辺裕一)



Flex Messengerが定期的にメールサーバーに届いたメールをチェックし、条件に合ったものを携帯電話やPHS、プライベートなメールアドレスなどに自動転送する。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp